とちぎメディカルセンター通信

No.11
2022.9

Special!

とちぎメディカルセンターの機能紹介について

Doctor's Interview

一般財団法人とちぎメディカルセンター
代表理事理事長

森田 辰男（もりた たつお）

代表理事理事長に就任して

topics

スペシャリスト　リレー紹介
摂食嚥下障害看護認定看護師

とちぎメディカルセンター通信
バックナンバーはWEBで閲覧できます。
https://www.tochigi-medicalcenter.or.jp/magazine/#log

Doctor's Interview

代表理事理事長に就任して

一般財団法人とちぎメディカルセンター
代表理事理事長
森田　辰男
（もりた たつお）

2022年（令和４年）６月24日に、一般財団法人とちぎメディカルセンター代表理事理事長に就任いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大、少子高齢化、人口減少など多くの問題をかかえ、先を見通せないこの時期に代表理事理事長に就任し、その責任の重さを痛感しております。

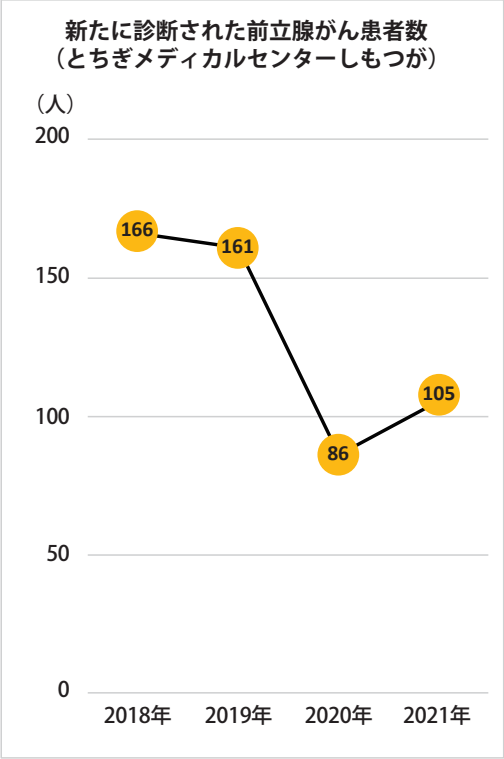
私は、東京に生まれ、茨城県の筑波研究学園都市にある筑波大学で医学を学び、大学卒業後、自治医科大学で泌尿器科を中心に臨床研修を開始しました。臨床研修後、自治医科大学や地域中核病院で臨床、研究、教育に従事し、1989年から米国テキサス州ヒューストンにありますテキサス大学MDアンダーソン癌センターでがん免疫の研究生活を送りました。その後、自治医科大学腎泌尿器外科学講座主任教授に就任し、自治医科大学地域臨床教育センター長や自治医科大学附属病院副病院長なども担当しました。2018年、自治医科大学退職後、一般財団法人とちぎメディカルセンターでの勤務を開始し、今年で５年目になります。私は、人生の３分の２以上を栃木県内で過ごしていますので、今や栃木は私のふるさととなり、とても愛着のある地になっています。

一般財団法人とちぎメディカルセンターは、2013年（平成25年）４月１日に３病院を統合再編し設立されました（1938年（昭和13年）に開設されたJA栃木厚生連下都賀総合病院、1953年（昭和28年）に日本初の医師会立病院として開設された下都賀郡市医師会病院、1989年（平成元年）に開設された医療法人陽気会とちの木病院）。当センターの設立目的は、予防医療、急性期医療から回復期・慢性期医療、在宅医療、介護に至るまで切れ目のない医療と介護を提供し、栃木市地域における地域完結型医療介護体制を実現することです。統合再編後の当センターは、機能分化を図り、それぞれ急性期医療を担う病院「TMCしもつが」、回復期・慢性期医療を主に担う病院「TMCとちのき」、予防医療・在宅医療・介護を担う「総合保健医療支援センター」（総合健診センター、介護老人保健施設「とちぎの郷」、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所）から構成されています。現在、病院総病床数557床、介護老人保健施設「とちぎの郷」100床を有し、総勢1,000名を超える職員が業務に従事しており、医師会やかかりつけ医、自治医科大学附属病院や獨協医科大学病院、地元栃木市を始めとする行政機関とも緊密に連携しながら、地域の患者さんに適切な医療を提供するなど、地域の拠点

病院としての役割を果たすとともに、居宅介護サービス等の提供を通して、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう多様な支援・サービスを提供する「地域包括ケアシステム」の一翼を担っています。さらに、医療介護サービスの提供や地球環境問題への取り組み等を通してSDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）の達成にも取り組んでいます。今後も、様々な課題に取り組み、当センターの医療介護機能をより一層充実させる必要があると考えています。

2019年にパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症は、いまだに終息の兆しが見えていませんが、当センターは、パンデミックの初期段階から新型コロナウイルス感染症の検査・診断や治療、予防（新型コロナウイルスワクチン大規模接種の実施等）に積極的に取り組んでまいりました。また、皆様に安心して医療介護を受けていただけるよう、すべての事業所において様々な感染対策の徹底を図っています。当センター職員は、医療人として「栃木市の健康を守る」という使命感・責任感のもと新型コロナウイルス感染症に立ち向かっています。今後も職員一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでまいります。

しかし、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、病院での感染を恐れて患者さんが「受診控え」をするケースが増えています。また、健康診断やがん検診の「受診控え」もみられています。今や、２人に１人はかかるといわれている「がん」ですが、成人男性において最も多くみられている「がん」（罹患数第１位）は前立腺がんです。私は、とちぎメディカルセンターしもつがで多くの前立腺がん患者さんを診療していますので、前立腺がんを例にコロナ禍における「受診控え」をご紹介します。図は、当院において新たに前立腺がんと診断された患者数の年次推移を示したグラフです。2020年に急激に診断患者数が減少し、2019年と2020年を比較しますと、前立腺がんの診断患者数が半減していることがわかります。これは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い病院・診療所や健康診断や検診で早期発見に役立つ前立腺がんの腫瘍マーカーであるPSAの検査を受ける方が



少なくなったため、当院を受診・紹介受診される方が少なくなり半減したものと思われます。また、このデータは、前立腺がんの診断に至っていない方が、現在、栃木市には多くいらっしゃるということを示唆しています。「受診控え」によるこのような傾向は、他の疾患でもみられています。私たちが懸念するのは、必要な方に必要な医療を提供できず、健康を維持できなくなり不幸な転帰をたどる可能性があるということです。健康を維持するには、自分の体をきちんと知ることが第一歩ですので、過度な「受診控え」を避け、適切に医療機関を受診してください。

当センターは、2023年（令和５年）に創立10周年を迎えます。これまで、『「心」の通う優れた医療を提供し、地域から信頼され愛されるメディカルセンターを目指します』という法人の運営理念を職員ひとり一人がしっかりと胸に刻み、地域の医療介護の拠点として着実な歩みを進めてきています。東日本大震災や新型コロナウイルス感染症パンデミック等、何が起きるか予測困難な昨今ですが、未来に向けてさらに躍進するためには、周囲の変化や地域のニーズに迅速かつ的確に対応する努力を継続する必要があります。今後も地域における医療介護に貢献するセンターであり続けるために、全力を尽くす所存です。皆様のご理解、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

Special

とちぎメディカルセン

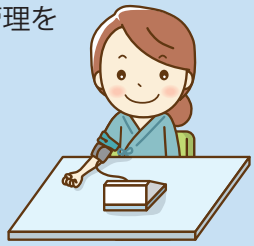
とちぎメディカルセンターの中には６つの事業所があり、
どんな時に利用すればいいのか、今回はセンター全体に

総合健診センター　とちのき総合健診センター

ご利用者のさまざまなニーズに対応します

人間ドックをはじめとして生活習慣病予防健診・特定健診・各種健診・オプション検査などの健診を取り扱います。

総合健診センターでは事業所へお伺いする巡回健診・学生の健康管理を目的とした学校検診などに対応します。



健康診断後もサポートします

健診の結果、要精密・要医療の判定になった場合は、しもつが・とちのきをはじめとする医療機関に紹介します。

保健

介

地域の健康づくりを支援する取り組み

医療従事者向け研修

市民公開講座

訪問看護ステーション

真心のこもった暖かい看護をモットーに、ご家庭を訪問し看護ケアを行っています

病気や障害を持った赤ちゃんからご高齢の方々が、住み慣れた地域・場所・ご家庭で、その人らしい療養生活を送れるよう、かかりつけ医師の指示に基づき24時間体制で支援します。

居宅介護支援事業所

介護や療養が必要になっても住み慣れた自宅で暮らしたい方へ

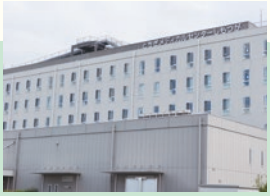
医療や福祉の経験を積んだ介護支援専門員（ケアマネジャー）が、ご本人やご家族の困っていることを伺い、自宅で生活を送るために必要な支援を行います。在宅介護・療養に関する相談、居宅サービス計画（ケアプラン）の作成、介護サービス事業者との連絡調整、福祉用具や住宅改修の相談を行っています。

ターの機能紹介について

医療だけでなく、介護・保健の機能を備えています。
おける各施設の役割について解説します。

医療

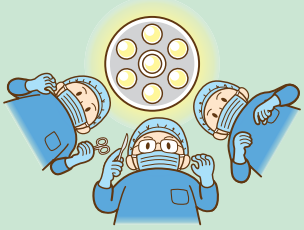
【急性期】しもつが



当院を受診する際には、「紹介状」を持参してください

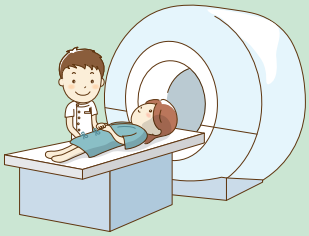
「かかりつけ医」の先生より紹介を受けて専門的な医療（検査、手術・治療、入院）や救急医療を担当します。

また、急性期の治療が終了して病状が安定しましたら、患者さんにご相談の上、回復期・慢性期病院への転院やお住まいの近くの「かかりつけ医」へご紹介します。



手術

専門外来



検査

護

【回復期・慢性期】とちのき

急性期治療終了後から在宅に至るまでの医療的な橋渡しや、在宅支援を担っています

（入院病棟の主な機能）

回復期リハビリテーション
集中的なリハビリテーションを実施し在宅や社会復帰を目指す病棟です。

療養
医療的療養が必要な患者さんにご利用いただく病棟です。

地域包括ケア
安心して在宅に戻り、住み慣れた地域での生活に繋げていきます。
在宅療養をする患者さんのご家族の休養（レスパイト）のための入院も受け入れる病棟です。

緩和ケア
がんを抱える患者さんのこころとからだに生じるつらさを和らげる病棟です。

【介護老人保健施設】とちぎの郷

生活期リハビリを中心とした在宅生活に即したリハビリを行っています

専門職によるリハビリを受けることができます。
ベッドから起き上がって車椅子に移る動作や自力歩行の練習、排泄訓練といった、ご家庭での日常生活に繋がる内容が中心です。
安心してご利用いただけるよう、医療や看護、介護、栄養管理にも力を入れています。

TOPICS ～摂食嚥下障害看護認定看護師の活動について～

とちぎメディカルセンターとちのき　摂食嚥下障害看護認定看護師　茂呂　恵美子

摂食嚥下障害看護認定看護師とは

摂食嚥下障害看護認定看護師とは、さまざまな病気や加齢による筋力低下、先天性疾患などで摂食（食べること）、嚥下（食べ物を飲み込むこと）機能が低下した患者さんの看護を専門に行う看護師です。

摂食嚥下障害は、症状を示す言葉であり、小児から高齢者と幅広い年齢層に起こる症状です。病名ではありません。この症状が起こりやすい病気にかかると、脳神経の障害や、喉の筋力低下・障害が発生し、食べ物を口の中で噛んだり、飲み込んだりする行動ができなくなり、今まで食べていた形状の食べ物が食べられなくなります。

私たち、摂食嚥下障害看護認定看護師は、今の摂食嚥下障害がどの程度か？どの形状の食べ物や飲み物なら摂取できるのか、どんな姿勢なら食べられるのか？どんな食具を使用したらいいのか？自分で食べられるのか？など、嚥下検査や評価を行い介入方法を決定します。その他、手術や治療による絶食状態から食事を再開する際は、嚥下障害症状がないかを確認し、入院中、安全に食事が摂取できる支援を行っていきます。

認定看護師ではありますが、通常の看護師と同じ業務も行います。もちろん、夜勤業務も行います。看護師という立場から医師やリハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師との話し合い、情報共有を行い、入院患者の安全・安楽な食事生活を守るために日々活動しています。

現在、栃木県では13名の摂食嚥下障害看護認定看護師が活動しています。有資格者はまだ少なく、有資格者不在の施設も多い中、とちぎメディカルセンターでは、私を含め２名の摂食嚥下障害看護認定看護師が活動しています。（２名の有資格者がいる施設は栃木県内ではとても貴重です。）

現在の活動

①NST委員会（栄養サポートチーム）

入院患者さんの栄養状態を血液検査から評価し、栄養状態が低下している方や点滴治療で食事が摂取できていない方、褥瘡がある方、経管栄養で栄養を摂取している方などの適切な栄養状態維持について毎週話し合います。多職種（医師、管理栄養士、看護師、薬剤師など）で適切な栄養摂取方法や他の栄養方法への変更について、さまざまな角度から検討しています。

②スタッフへの勉強会

認定看護師の教育機関で学習した知識や技術を院内での看護実践に役立てるため、スタッフ向けの勉強会を開催しています。口腔ケア研修（自分で歯磨きできない方の歯磨き、入れ歯の管理など）の手技や自分で痰を出せない方の喀痰吸引の方法、自分で食事を摂取できない方の食事介助方法、口から食べられない方の栄養方法の選択についての情報提供（中心静脈栄養、経鼻経管栄養、胃ろうなど）、新人スタッフ研修などを行っています。

③病棟での活動

自施設では高齢の患者さんが多く、食事を口から取れず、点滴や経鼻経管栄養、胃ろうなどさまざまな方法で栄養を摂取しています。病気により意識障害があり、ご自分で今後の栄養方法を選択できないことも多くあります。その場合は、ご家族が今後の栄養方法を決定しなければいけません。栄養方法の詳細を理解した上で決められるように、栄養方法のイメージイラストやメリット・デメリットを載せた一覧を活用し、内容説明・栄養方法選択時のアドバイスを行っています。

患者さんに摂食嚥下障害症状が出現している場合、医師、言語聴覚士、管理栄養士に患者さんの状態を報告し、誤嚥性肺炎の治療や食事形態の変更、食具の変更、とろみ剤の使用、口腔ケアの強化などを行っています。

病棟スタッフが摂食嚥下障害症状が出現している患者さんに対し、どのように対応すればよいかを悩んでいる時は、相談を受け、対応しています。必要であれば医師の指示で、嚥下内視鏡や嚥下造影を行い、詳しく摂食嚥下障害を確認しています。

地域連携協力施設のご紹介

とちぎメディカルセンターでは、地域の診療所・クリニックの先生に「地域連携協力施設」としての登録をお願いしております。第一線の地域医療を担う「かかりつけ医」の先生方と連携を密に取ることで、互いの役割を明確にし、切れ目のない医療を提供しています。
このコーナーでは登録いただいている施設を毎回ご紹介します。

橋本医院

栃木市　橋本医院　検索

院　長：橋本安紀子
住　所：栃木市樋ノ口町396-39
ＴＥＬ：0282-22-5875
診療科：内科・腎臓内科・循環器内科・泌尿器科
一般外来診療時間：9：00～12：00　月、火、水、木、金、土
14：00～17：00　月、水、金
※一般外来診療は完全予約制になっております。お電話にてご予約承ります。
血液透析診療時間：9：00～　月、火、水、木、金、土、祝
14：00～　月、水、金、祝（月水金のみ）

当院は血圧、腎臓病、循環器疾患、泌尿器疾患に対応したクリニックです。
管理栄養士による食事相談、健康運動指導士の運動療法など、患者さんの健康を細やかにサポートさせていただいております。
透析センターを併設しております。腎臓内科医、循環器内科医、泌尿器科医が連携して透析患者さんを総合的にケアしております。また、患者さんのクリニック滞在時間が長くなる為、安全安心にお過ごしいただける環境を整えております。
通院方法のご相談も受け付けております。

新島内科クリニック

院　長：新島健司
住　所：下野市文教3-10-4
ＴＥＬ：0285-53-8820
ＦＡＸ：0285-53-8654
診療科：
内　　科：総合内科専門医（新島聡）
循環器内科：循環器科専門医（新島聡）
脳神経内科：脳神経内科専門医
（新島健司、新島純子、石井悠子）
認知症外来：認知症専門医（石井悠子）

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8：00～12：00	●	●	●	●	●	●	－	－
14：00～18：00	●	●	－	●	●	－	－	－

当クリニックは頭書の診療科で内科全般、循環器疾患（高血圧症、心臓弁膜症、慢性心不全、狭心症並びに心筋梗塞）、神経疾患（頭痛、めまい、神経痛並びに末梢神経障害、脳卒中、パーキンソン病、脊髄小脳変性症並びに筋萎縮性側索硬化症などの神経難病）、物忘れや認知症を発症するアルツハイマー型認知症などを専門的診療や検査を含めて加療しております。

おもちゃのまち内科クリニック

院　長：安楽幸悦
住　所：下都賀郡壬生町
幸町2-11-2
ＴＥＬ：0282-86-1517

診 療 科：一般内科、循環器内科
診療時間：9：00～12：00 16：00～18：00（土曜13：30～15：00）
休 診 日：木曜、日曜、祝日
https://omocha-naika-cl.com/

皆さん、こんにちは。私は以前、主に獨協医科大学や聖マリアンナ医科大学の関連病院で内科医として勤務してまいりました。とちぎメディカルセンターでも2015年度から2020年度まで内科医として勤務させていただき皆様には大変お世話になりました。現在は訪問診療や産業医活動にも携わらせていただきながら、当クリニック院長として今まで積ませていただいた経験を地元の皆様に還元できるよう、スタッフ一同日々精進し続けたいと考えております。アットホームな雰囲気のクリニックですので、一般的な健康相談や生活習慣病など、ぜひ一度お気軽にご相談ください。

医療法人 小山すぎの木クリニック

院　長：朝倉伸司
住　所：小山市中久喜
1113-1
ＴＥＬ：0285-30-3456

診療科：内科、透析内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、
血液内科、胃腸内科、糖尿病内科、内分泌内科、
脂質代謝内科、漢方内科、老年内科、内視鏡内科、
アレルギー疾患内科、脳神経外科、アレルギー科、
小児科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、
泌尿器科、腎臓外科
診療時間：ホームページをご覧ください
休 診 日：ホームページをご覧ください
https://www.suginoki-cl.jp

当院では、お仕事をされている透析患者様のために、夜９時～翌朝６時までの約８時間、寝ている間に透析ができる深夜透析も行っている、北関東では唯一のクリニックです。また、最近では骨粗鬆症の患者様が多くなっているため、“骨折バスターズ”を編成し、患者様の骨を丈夫にすることにも努めています。患者様に優しいクリニックを目指しています。

2022年 レスリングU17世界選手権 ～ローマ帯同記～

スポーツ健康科　矢野　雄一郎

17歳以下のレスリング世界選手権の帯同ドクターとしてイタリア、ローマへ遠征しました。私自身も海外帯同は2020年１月のスウェーデン遠征以来です。

レスリングは男子のグレコローマンスタイルとフリースタイル、女子フリースタイルの３スタイルがあります。今回は男子10階級、女子９階級にエントリーしたので、選手39名、スタッフ10名、総勢49名の日本選手団でした。

羽田空港からグレコローマンチームとイタリア入りし、２日間の調整を経て試合が３日間、グレコローマンの試合が始まる前日に女子が到着し調整に入り、その２日後に男子フリースタイルが到着し、調整に入るという目まぐるしさです。試合も見ながら、調整している選手たちの体調にも気を遣う状況です。体調不良者や怪我人も出ましたが、幸い大事に至らず良かったです。

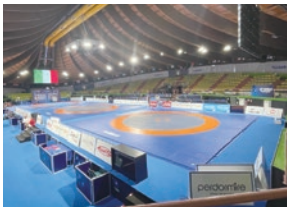
帯同トレーナーからの試合前テーピング

宿舎での治療の様子

試合日は朝７時に集合し検温と食事、朝８時半からメディカルチェックと計量、９時半のバスで会場入り、11時から試合開始、優勝選手がいた場合はそのままドーピング検査があるため、ドクターは終了まで同席し、１日が終了です。ドーピング検査も初めての選手ばかりで、遅い日は深夜２時頃になった日もありました。

競技が終了したスタイルから帰国します。日本は帰国後72時間以内の新型コロナウイルスPCR陰性証明が義務付けられておりましたので、陽性だと帰国できなくなります。周りが誰もマスクを使用していない中、日本選手団はしっかり着用、まめに消毒したりと真面目に感染症対策をしてくれました。おかげで全員陰性で無事に帰国できたことには大変感謝いたします。

初めての海外遠征で調整に苦労した選手や海外選手の力強さに驚いた選手もいたようですが、貪欲に勉強しようとしている若い選手たちを近くで見て刺激をもらいました。若い世代の遠征は各選手の成長も見れますし、活躍を見る楽しみも増えます。今回の選手たちが将来の世界チャンピオンになることを期待し、今後も注目していこうと思います。


試合会場

健康レシピ

ポークソテー梨のソースがけ

料理制作
管理栄養士：田中彩香

管理栄養士コメント

８月から10月にかけてが旬の梨を使用したレシピです。

梨には、ソルビトール、アスパラギン酸、カリウム、食物繊維、ポリフェノールなど、 身体にとって嬉しい栄養素が含まれています。

ソルビトールや食物繊維は、整腸作用が期待でき、アスパラギン酸は疲労回復、カリウムは身体のむくみの解消に繋がり、ポリフェノールは抗酸化作用を発揮してくれる栄養素です。ぜひ、梨を食べるようにしてみましょう。

＜材 料＞（2人分）
- 豚肉 200g　●塩こしょう 少々　●梨 1/4個
- Ⓐしょうゆ 大さじ１　●Ⓐみりん 大さじ1/2　●Ⓐ酒 大さじ1/2
- バター 小さじ１　●薄力粉 大さじ１　●油 大さじ１　●こしょう 少々

【付け合せ】　●ブロッコリー 15g　●パプリカ 10g

作り方

① 豚肉に塩こしょうをふり、10分間置く。
② 豚肉に薄力粉をつけ、油をひいたフライパンで焼く。
③ 片面が焼けたらひっくり返し、すり下ろした梨を加える。
④ Ⓐ（しょうゆ、みりん、酒）を加え、煮からめる。
⑤ バターを加え、こしょうをふる。
⑥ ゆでたブロッコリーとパプリカを添える。

カロリー（１人分）
エネルギー312kcal
タンパク質22.8g
塩分2.0g

■11号の表紙：太平山から見える栃木市の街並みとTMCの施設（しもつが、総合保健医療支援センター）

栃木市地域における地域完結型医療介護体制を実現するため、とちぎメディカルセンターは栃木市内に機能の異なる６つの施設を運営しています。2013年の開設以来、地域の皆さんの協力のもと、栃木市地域で医療介護の拠点として着実に歩みを進めております。今後ともよろしくお願いします。

発行・編集
一般財団法人
とちぎメディカルセンター
総合連携推進本部 広報部
https://www.tochigi-medicalcenter.or.jp/